

山腹緑化用ヤマハンノキ

山腹緑化に使用するハンノキ類については、古くはヤシヤブシ、ヒメヤシヤブシが多く使用された時期と、ヤマハンノキが使用された時期があった。昭和40年頃から生長の早いコバノヤマハンノキ（タニガワハンノキ）が使用されるようになった。

これは、コバノヤマハンノキの養苗技術が確立され、種子の入手がたやすく、大量に生産できるようになったことからである。この結果ハンノキと混同されコバノヤマハンノキがハンノキという名称で使用されるようになった。

ところが、コバノヤマハンノキは、乾燥に対する抵抗性が弱く山腹緑化工施工地においては、生育不良や枯損等が生じている。

表-1に示すとおり、コバノヤマハンノキの生育適地は、沢ぞいで土壌条件は適潤～やや湿潤、主として本州の中部から東北地方の標高800mから1800mにかけて分布している。ヤマハンノキの生育適地は、山腹斜面の中腹から尾根筋で土壌条件は適潤～やや乾燥、主として本州全域、四国、九州の標高約1500m以下に分布している。

このようなことから、今後、山腹緑化用としてはコバノヤマハンノキより乾燥に強いヤマハンノキを使用する必要がある。

また、参考のためにヤマハンノキ類の識別点を表-2と図に示した。

(造林部 大木)

表-1 ヤマハンノキ類の生育地

種名	生育環境	標高	生育地	土壌適地
コバノ ヤマハンノキ	沢ぞい	800 ～1,800 m	本州の 中部～ 東北	適潤～やや湿潤
ヤマ ハンノキ	山腹斜面 の中腹か ら尾根ま で	1,500 以下	本州、四 国 九州	適潤～やや乾燥
ケヤマ ハンノキ	沢ぞい から尾根 まで	1,000 ～1,800	本州の中 部、東北、 北海道	〃

表-2 ヤマハンノキ類の識別点

種名	葉の形態		冬芽	球果の長さ
	葉身の長さ	毛の状態		
コバノ ヤマハンノキ	2～5cm	下面黄褐色 絹毛あり	茎に向く	10～13mm
ヤマハンノキ	7～12cm	毛が無いか、 又は少毛	茎に反る	15～25mm
ケヤマ ハンノキ	〃	下面密毛あり	〃	〃



コバノヤマハンノキの冬芽
(タニガワハンノキ)



ヤマハンノキの冬芽